

2023年度

第4四半期決算

期間：2023年7月1日～9月30日

2023年11月16日、ドイツ・ミュンヘン

過去最高水準の会計年度を力強く締めくくる

シーメンスAGのローランド・ブッシュ代表取締役社長兼CEOは、「2023年度は複数の記録を更新した年でした。インダストリアルビジネスでは、利益と利益率が過去最高水準に達し、純利益はほぼ倍増し、歴史的な高水準となりました。この素晴らしい結果に多大な貢献をしてくれた世界中の従業員に感謝したいと思います。当社の戦略は実を結んでおり、今後も、お客様によるデジタル化と持続可能性への変革を加速してまいります」と述べています。

シーメンスAGのラルフ・P・トーマスCFOは、「2023年度もシーメンスは価値創造の成長路線を継続し、フリーキャッシュフローは史上初めて100億ユーロを超えました。この好業績を受け、株主の皆様には、4.70ユーロへの増配（配当利回りは3.5%）をご提案すると共に、自社株買いプログラムを拡大することで還元してまいります」と述べています。

- 第4四半期の売上高は、為替変動と製品ライン構成の影響を除いた前年同期比で10%増、受注は同6%増。
- 名目ベースでは、インダストリアルビジネスの全部門で過去最高の売上高を記録したことから、売上高は前年同期比4%増の214億ユーロ、受注高は前年同期とほぼ同水準の218億ユーロとなり、出荷受注比率は1.02。
- インダストリアルビジネスの利益は7%増の34億ユーロと四半期ベースで過去最高、利益率は16.5%。
- 純利益は19億ユーロ。これとの比較において、2022年度第4四半期の純利益29億ユーロは、郵便・小包取扱事業の売却益11億ユーロ（税引前）によって押し上げられていた。これに対応する、基本的な1株あたり利益（「EPS」）は2.17ユーロ、企業買収時の取得原価配分前のEPS（「PPA前EPS」）は2.34ユーロ。
- キャッシュ増という点でもう一つ優れた成果を挙げたのは、シーメンス・グループのフリーキャッシュフロー46億ユーロであった。

- 2023年度通期の歴史的な好業績の中でも、売上高は比較可能ベースで11%増となり、すでに上方修正したガイダンスの上限に達した。受注は比較可能ベースで7%増。名目ベースでは、売上高は8%増の778億ユーロ、受注高は4%増の923億ユーロとなり、出荷受注比率は1.19。
- 2023年度のインダストリアルビジネスの利益は前年度比11%増の114億ユーロと過去最高を記録、純利益はほぼ倍増の85億ユーロと過去最高水準、これに対応する基本EPSは倍増以上の10.04ユーロ、PPA前EPSは10.77ユーロに達した。この結果、PPA前EPSに0.84ユーロ寄与したシーメンスエナジーへの投資分を除くPPA前EPSは9.93ユーロとなり、ガイダンスを超過達成。シーメンス・グループのフリーキャッシュフローは過去最高の100億ユーロに達した。
- 1株当たりの配当金を前年の4.25ユーロから4.70ユーロに増額することを提案。

シーメンス

(単位：100万ユーロ)	第4四半期		増減 (%)	
	2023年度	2022年度	実績	比較
受注	21,803	21,817	0%	6%
売上	21,393	20,573	4%	10%
利益 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	3,378	3,159	7%	
内：退職手当	(150)	(44)		
利益率 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	16.5%	16.2%		
退職手当を除く	17.3%	16.4%		
継続事業からの利益	1,907	2,915	(35)%	
内：退職手当	(185)	(65)		
非継続事業からの利益、 (税控除後)	(5)	(2)	(126)%	
純利益	1,902	2,913	(35)%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	2.17	3.39	(36)%	
PPA前のEPS (単位：ユーロ)	2.34	3.59	(35)%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	4,634	3,451	34%	
キャッシュ・コンバージョン・ レート	2.44	1.18	107%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	16.9%	24.6%		

- 受注高には、モビリティの大型案件での数量増、Siemens Healthineersおよびスマートインフラストラクチャー事業の成長、デジタルインダストリーズにおける短期サイクルオートメーション事業の受注減が含まれる。
- すべてのインダストリアルビジネスで売上高が過去最高水準となり、中でもスマートインフラストラクチャーが成長に最も貢献。
- 販売台数は伸びたものの、為替換算のマイナス効果が大きな重荷となり、受注高および売上高の伸びがこの影響でそれぞれ6%ポイント縮小した。製品ライン構成の影響は軽微である。
- デジタルインダストリー事業とスマートインフラストラクチャー事業が大幅増益で共に四半期ベースでの過去最高益となり、これによりインダストリアルビジネスも四半期ベースで過去最高益となった。
- 連結財務諸表に対する調整項目には、シーメンスエナジーへの投資に関連する2億ユーロの損失が含まれる一方、2022年度第4四半期にはロシア関連の影響による3億ユーロの損失が含まれる。また、2022年度第4四半期にポートフォリオカンパニーは郵便・小包取扱事業の売却益11億ユーロ（税引前）を計上。
- すべてのインダストリアルビジネスで卓越した現金流入を記録し、同部門で41億ユーロ（2022年度第4四半期は39億ユーロ）のフリーキャッシュフローを生み出し、これにより卓越したフリーキャッシュフローを実現。また、主にヘッジ金融商品の決済による本社財務部門からの現金流入など、インダストリアルビジネス以外の貢献もあり、高いキャッシュコンバージョン率とフリーキャッシュフローを実現。
- 2023年9月30日現在の年金引当金および類いの債務も、14億ユーロと歴史的な低水準に減少した（2023年6月30日時点では17億ユーロ）。これは、主に割引率の上昇による。
- ROCE（使用資本利益率）は、目標レンジに明確に到達した。なお、2022年度第4四半期のROCEには前述の事業売却益が含まれる。